

平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章		都立矢口特別支援学校		知的障害	基	通学区域	大田区、世田谷区				
		「家庭・地域との連携と一貫した教育の推進」		一人子ども一人一人が人間性豊かに成長し、地域で暮らす力を育成する学校を		本	進路実績	小学部15名本校中学部進学 中学部28名(都立港特別支援高等部・都立田園調布特別支援高等部、ルネサンス高等学校)			
基	所在地	〒146-0093 大田区矢口一丁目26番10号		電話番号	03-3759-6715		情	教育課程の特徴	① 小学部・中学部教育の推進 ② キャリア教育の推進 ③ 小学部・中学部の一貫した教育課程の推進 ④ 外部専門員導入に伴う授業改善に基づいた教員の専門性の向上 ⑤ 地域と連携した防災教育推進と福祉避難所開設に関する施設・設備の充実		
	アクセス	(1) 東急多摩川線武蔵新田駅 下車徒歩5分 (2) (3)		報	副籍実施状況	50名(直接的交流40名、間接的交流10名)					
本	設置学部	小学部、中学部			情	学校評価	回答率(保護者76.0%、教職員100%、地域住民 100%) 保護者肯定的評価率(すべての設問平均)88%、教職員94%(令和元年度分)				
	幼児・児童生徒数	194名(小学部138名、中学部56名)		ホームページ		http://www.yaguchi-sh.metro.tokyo.jp/					
報	学級数	43学級(小学部30学級、中学部13学級)		報	学校評価	回答率(保護者76.0%、教職員100%、地域住民 100%) 保護者肯定的評価率(すべての設問平均)88%、教職員94%(令和元年度分)					
	スクールバス	6台(大型2台、中型3台、小型1台)									
その他	平成29年度～平成31年度 公開研究会実施 特別支援教育エリアネットワークセンター校(大田区)										

目指す学校 「子ども一人一人が人間性豊かに成長し、地域で暮らす力を育成する学校」①児童・生徒の可能性を最大限に伸ばし、質の高い教育を実践する。②保護者、地域、関係諸機関との連携を図り、地域力を高める。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目標①	自立・社会参加を踏まえたキャリア教育の充実 ①生活に役立つ力として、あいさつ力の充実 校内あいさつ検定の実施 ②専門家連携による清掃力の向上、校内清掃検定並びに親子清掃教室の実施 ③地域等における作業製品販売実習の実施 ④学部・学年に応じたキャリア教育の充実	①校内あいさつ検定については昨年度比2倍の39名が実施した。1年生の挑戦も多かった。在校生ではレベルアップで挑戦する児童・生徒も増加している。次年度は、今年度以上に児童・生徒が自分の挨拶スタイルで、相手を意識して対応できるよう推進する。②清掃検定については、ビルメンテナンス協会の協力を得て中学部での生徒が受講できるように工夫した。今年度は昨年度比2倍以上の41名が受講し生徒のスキルアップにつながってきている。③区役所販売は、中学部3年生が中心となって作業製品を販売した。オープンフェスタでは中学部1、2年生が作業作品販売を行い、キャリア教育の推進につながった。	
目標②	全校的な専門性の向上 ①全国公開研究会実施(令和2年1月31日)②特別支援学校教員免許状取得率の向上 ③OJT体制の充実による授業力の向上④大学や地域の専門家と連携した授業改善研究⑤全教員の公開授業と授業自己・教室環境整備チェックシートの活用	①小中一貫した教育課程に関する研究の3年目のまとめとしてグループワークや講師の講義形式で公開研究会を行い全国から62名の参加を得ることができた。次年度は新たな3年間の研究として、授業内容の充実と評価の確立を行う。②特別支援学校認定講習受講も活用しながら全体の取得率も90%に達している。③専門性の自己チェックシートも自己申告等で活用し、専門性もOJTを活用して特に若手教員への育成を行った。④外部専門員の導入で教員の専門性や児童・生徒のアセスメントを検討することで授業改善等につなげている。⑤教職員は、2回以上の公開授業を展開している。授業力の向上や改善を図りながら意欲につなげていく。	
目標③	組織力の充実と効率的な学校運営の推進 ①ミドルリーダーの育成②仮設校舎の安全・安心な学校生活の維持③校舎改築に向けた計画的な対応④地域と連携した総合防災訓練・宿泊防災訓練・福祉避難所開設準備訓練の継続実施④ライフワークバランスを考慮した学校組織運営の充実⑤いじめ・体罰防止にの徹底	①毎週1回主任・主幹会を設定、お互いの理解を深めることと課題点を認識するように取り組んだ。②新たに使用した第2校舎の点検も随時行い修理等必要な箇所は早急に対応した。事故や怪我防止には最優先で取り組んでいる。③新校舎計画も予定通り進行し、児童・生徒数の増加に対応する調整を図っている。④1泊2日宿泊防災訓練も3年目を迎え中学部3年生が参加し、福祉避難所開設訓練も町会や関係機関も参加して取り組んだ。⑤ライフワークバランスに対して月1回の定時退庁日や週に1回会議時間の調整を図ることで有意義に過ごせる時間を設定した。⑥週1で行われる企画調整会議で小中学部のいじめ体罰の状況を確認して予防に取り組んでいる。	

数値目標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	学校公開参加者人数	300	307	300	347	330	352	250	261	400	400	400
目標②	専門性自己チェックシートの活用ポイントアップ率	8ポイント	8ポイント	8ポイント	8ポイント	5ポイント	5ポイント	8ポイント	8ポイント	8ポイント	8ポイント	8ポイント
目標③	マネージメントサイクルによる進行管理率	90%	95%	90%	90%	95%	95%	95%	95%	90%	90%	90%

本校の概要

- 1 学校種別 知的障害特別支援学校（設置学部—小学部、中学部）
 小学部137名 中学部56名 計193名（令和元年5月1日現在）
 ※ 東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画の推進に伴い、平成28年9月に仮設校舎に移動しました。平成28年度で高等部は閉課程となり、平成29年度より小・中学部のみ^の知的障害特別支援学校となりました。
 ☆ 矢口特別支援学校の中学部卒業後の主な進学先は、港特別支援学校（知的障害）もしくは田園調布特別支援学校（知的障害）になっています。
- 2 教育目標
 「一人一人が人間性豊かに成長することを願い、児童・生徒の障害の状態や心身の発達の段階に応じて知性、感性、道徳心や体力を育み、調和のとれた発達を図る」

交流活動

学校間交流の他、副籍制度を利用した交流活動として児童・生徒は地域の小・中学校と交流を行っています。

＜学校間交流の様子＞

小学部：大田区立多摩川小学校との交流

中学部：大田区立安方中学校との交流



『副籍制度』とは、特別支援学校に通う児童・生徒が、居住地の小中学校に副次的な籍を置き、直接又は間接的に交流をする制度です。地域との交流は、将来、障がいのある人もない人も共に暮らす社会を形成する担い手を育てることも大切にしています。

通学区域

＜以下の区域を除く大田区全域＞
 北馬込、東馬込、山王、大森北、大森本町、平和島、東海、城南島、京浜島、昭和島、大森東、大森中、大森南、東蒲田、北糀谷（上記の区域は、平成24年度入学者より品川特別支援学校の通学区域となりました。）

＜世田谷区＞
 深沢1～5丁目、等々力、野毛、中町1～4丁目、尾山台、奥沢、上野毛1～3丁目、玉堤、玉川田園調布、東玉川、駒沢公園の駒沢通りより南側



年間行事予定

- 1学期
 4月 始業式 入学式
 定期健康診断
 5月 修学旅行（小6、中3）
 6月 遠足（小3、4、5）
 社会見学（中2）
 就業体験（中3）
 授業参観
 7月 遠足（小2） 社会見学（中1）
 学校公開 宿泊防災訓練
 終業式
- 2学期
 9月 始業式 遠足（小2）
 移動教室（小4）
 10月 授業参観 学校公開
 遠足（小1、3）
 社会見学（中3）
 移動教室（小5、6）
 就業体験（中1、2）
 11月 移動教室（中1、2） 矢口祭
 12月 終業式
- 3学期
 1月 始業式 就業体験（小6、中3）
 2月 授業参観 1日入学
 就業体験（小6）
 3月 卒業式 修了式
 卒業式 修了式

スクールバス

大森コース
 羽田コース
 池上コース
 世田谷コース
 六郷コース
 多摩川コース

